

麻生区区民会議 第2回専門部会『(仮称) 麻生区の魅力発掘・発信検討部会』議事要旨

- 1 開催日時：平成29年1月17日（火）午後3時～午後5時
- 2 開催場所：麻生区役所 第3会議室
- 3 出席者：[専門部会委員] 安藤和彦委員、石井よし子委員、菅野明委員、鈴木昭弘委員、高倉秀敏委員、長岡さや委員、林恵美委員、松田基久乃委員、吉垣君子委員
(欠席) 橋本周委員
[事務局] 企画課 井上課長、福島係長、佐藤
[コンサルタント] 中島

4 傍聴者：0名

5 議 題：

1. 調査・審議課題の検討について

(1) 前回部会の振り返りについて

- ・吉垣君子委員が前回欠席のため、また、前回の議事確認のため、前回部会の内容を振り返った。

(2) 審議テーマの検討について

【決定事項】

- ・審議の方向性について、麻生区の魅力PR委員会の具現化に向けて検討することとする。
- ・魅力PR委員会で検討していく魅力とは、農業を含めた麻生区の様々な魅力を対象とする。
- ・今後は実現の可能性を踏まえながら、麻生区の魅力の再整理や、あるべきまちの姿（PRの目標）を共有した上で、委員会の構成（組織）、委員会の役割、魅力PRの発信対象、発信手段等をメインに審議することとする。

【審議テーマの洗い出し段階における主な意見】

個々の魅力に関する意見

- ・魅力PR委員会の魅力とは総合的なものを意味し、その中には農業も当然入れるべきである。
- ・第5期の魅力に関わる団体の連携の図（資料2参照）の中に、農業が入っていないのは、セレサ川崎農業組合の第4～5期の前任者がほとんど出席できなかったという事情があり、麻生区の魅力として農業は入れるべきである。
- ・農業の魅力をPRすることは賛成だが、農家の経営判断に関わる話には踏み込むべきでない。
- ・麻生区は元来、里山都市であって農業が魅力としてあったところに、芸術家が集まり芸術を生み出し、芸術が麻生区の特徴となったという経緯がある。その経緯が知られていないという部分がある。
- ・しんゆり映画祭やアルテリッカ等も企画者や関係者には知られているが、一般区民の中では、あまり知らない人もいる。知りたい人が情報に到達できるような手段が必要である。

魅力PR委員会の活動について

- ・魅力がたくさん存在するという声があるのはわかっているが、一般区民に届いておらず、発信することを考えた方が良い。
- ・トータルとして魅力と捉え、中身は多様であって良い。
- ・キャッチフレーズも大事だと思うが、区内向きと区外向きで異なるものを作っても良いのではないか。
- ・「(仮称)麻生区の魅力発掘・発信部会」は様々な知見を持った方の集合であり、ここがすでに魅力PR委員会とはならないか。たくさん確認できる魅力をこの部会で横につなぎ、外にPRすることを考えたらどうか。
- ・この会が魅力PR委員会ということであれば、芸術のまちづくりのHP、FB等での後方に協力できると思う。
- ・区役所に来ないと、様々な魅力がわからない。地方にあるような駅前の観光案内のようなものがないか。
- ・区の全体の情報に特化したコミュニティカフェのようなものが公民館あたりでできないか。
- ・芸術や農業等をつなぐ麻生区の年間スケジュールを作成すれば、魅力発信の一手段になるのではないか。
- ・発信の媒体も高齢者には紙ベースが必要であるし、若者世代には実現は困難かもしれないがアプリのようなものも考えられるのではないか。
- ・魅力を発信するにせよ、できることとできないことの整理が必要であり、役割分担の確認も必要である。

その他

- ・区内の空き家（一軒家）や空室の数について知りたい。空き家の定義とは何か。
→次回部会にて、事務局から資料を提供する。

【審議テーマの絞り込み段階における主な意見】

- ・空き家問題を魅力PR委員会の中に織り込むのは良いが、空き家を審議テーマの主体とすることは困難である（全員同意）。
- ・発信の観点からは区内への発信が中心となるだろうが、区外への意識も捨てがたい。
- ・実現可能性の観点から、親子でできる体験型の試みをPRしていったらどうか。どのような魅力であれ、参加することが大事である。良いものがあるのにアクセスできないという現状があるため、情報の集約と発信方法が重要になると思う。

2. その他

- ・各委員は次回までに麻生区の魅力を再度、確認・整理した上で、PRの目標やPRの対象（どういう世代の人達なのか）を考えること。
- ・今回はポストイットを用意して麻生区の魅力を再整理した上で、審議を進めることとする。

以 上